

～世界平和アピール七人委員会講演会～

と き：令和8年8月26日（水）
19：00～21：00頃まで

ところ：丹波篠山市民センター2F
多目的ホール

演 題：「あすへの記憶」
一戦争が繰り返される今、未来の戦争を
なくすために一

講 師：大石 芳野 さん（写真家）
世界平和アピール七人委員会委員
※パネルディスカッション（予定）



戦争は終わっても終わらない…

広島・長崎、東京大空襲、アウシュヴィッツ、沖縄、ベトナム、コソボ、ウクライナ……災禍を
生きた人たちに向き合い、話を聴き、カメラに収めて半世紀。日本を代表するドキュメンタリー
一写真家が、これから生きる人たちと共有したい記憶とは。（著書「あすへの記憶」紹介文から）

講演趣旨 大石芳野さんから

記憶を若い人たちに繋いでいきたいことが、今の私の主題です。

半世紀、私は「戦争は終わっても終わらない傷を受けるから、決して繰り返してはならない」という
強い思いで、大勢の人たちに逢ってきました。しかし、いまやまさかの戦争の時代になってしま
いました。

戦争が繰り返されている今、未来の戦争をなくすために私たちはどうしたらいいのか…。

私にできることはこれまで話を聴き写真を撮ってきた人たち、一人ひとりについて、その一
部ではありますが写真を見ていただきながら一緒に考える機会になればいいと思っています。
『あすへの記憶』（日経新聞社刊、2026）。いまの私の思いの一部はそこにも著しました。

★パネルディスカッションに参加いただける方を募集しています（2名程度）

関心のある市民の方（在住、在勤、在学：高校生以上）は下記までご連絡ください。

【講師プロフィール】（世界平和アピール七人委員会ホームページ等から引用）

写真家。1943年東京生まれ。フリーランスとして40年余りドキュメンタリー写真を撮り続けている。
写真集に『沖縄に生きる』、『HIROSHIMA 半世紀の肖像』、『夜と霧は今』、『カンボジア 苦界転生』、『ベ
トナム 凜と』、『アフガニスタン 戦禍を生きぬく』、『子ども 戦世のなかで』、『＜不発弾＞と生きる～祈り
を織るラオス』、『福島 FUKUSHIMA 土と生きる』、『戦禍の記憶』、『長崎の痕』、『あすへの記憶』他、エ
ッセイ集に『夜と霧をこえて』、『沖縄 若夏の記憶』、『わたしの心のレンズ～現場の記憶を紡ぐ』他。受賞：
土門拳賞、紫綬褒章、JCJ賞（日本ジャーナリスト会議）、登和フューチャリスト賞、他。

主 催：丹波篠山市、世界平和アピール七人委員会、（公財）下中記念財団

問い合わせ：丹波篠山市市民生活部人権推進課 ：079-552-6926

下中弥三郎（しもなかやさぶろう）：

1878（明治 11）年 6 月 12 日、今田村（現・兵庫県丹波篠山市今田町）下立杭に陶工喜久蔵の子として生まれる。幼くして父を失い 9 歳で小学校を中退、陶工として働きながら百科辞典を読んで独学で勉強し、小学校教師、師範学校の教師となる。

労働・婦人運動にも積極的に取り組みつつ、「出版とは教育である」という理念のもとに、1914（大正 3）年に「や、これは便利だ」という現代用語事典を著し、平凡社を創業、「世界美術全集」「現代大衆文学全集」などを次々に世に送り出し、一躍出版界の先駆者となる。

晩年は、1951（昭和 26）年に世界の国と人々がお互いの文化を尊重する平等で平和な「世界連邦」を提唱、「世界平和アピール七人委員会」の立ち上げに尽力した。1958（昭和 33）年 12 月、旧今田村は、第 1 号の名誉村民として推戴。1961（昭和 36）年 2 月 21 日没。

旧今田町は、1984（昭和 59）年 6 月に故人の事業を記念する顕彰塚として故郷の下立杭東部、虚空蔵山山麓に「やさが塚」を建立。弥三郎の筆による「雲」の文字を彫刻家の流政之が彫刻し、標柱の「やさが塚」の文字は弥三郎の友人で元法政大学総長 谷川徹三氏の揮毫。ミニ公園として整備されている。

世界平和アピール七人委員会：

1955（昭和 30）年 11 月 11 日に下中弥三郎の提唱によって発足。人道主義と平和主義に基づいて国際間の紛争は絶対に武力によらず、平和的な話し合いで解決すべきだと考え、国内・国外に意見表明を続けてきた不偏不党の知識人・文化人有志 7 人の会です。発足当時の委員は、下中弥三郎、植村環、芽誠司、上代たの、平塚らいてう、前田多門、湯川秀樹の 7 人でした。

現在の委員は、大石芳野（おおいし よしの 写真家）、小沼通二（こぬま みちじ 素粒子物理学者、慶応大学名誉教授）、池内了（いけうち さとる 宇宙物理学者、名古屋大学名誉教授）、高村薫（たかむら かおる 作家 93 年直木賞受賞）、島菌進（しまどの すすむ 宗教学者。東京大学名誉教授）、酒井啓子（さかい けいこ 国際政治学者 千葉大学教授）、藤原辰史（ふじはら たつし 京都大学教授）の 7 名。

これまで 171 本のアピールを発表（2026 年 6 月 25 日現在）し、毎年 11 月には国内各地で講演会を開催しています。

丹波篠山市では、下中弥三郎没後 50 年の節目である 2011（平成 23）年 11 月に記念講演・シンポジウムが開かれ、以来、毎年各委員の持ち回りによる講演会が開催されています。

下中記念財団：

下中弥三郎の業績を記念し、その遺志を継承する組織として、1962 年（昭和 37）6 月に財団法人として設立され、「教育」への貢献を目指し、科学研究や留学生を対象とした助成から、映像記録アーカイブや百科事典の情報基盤整備まで、幅広い活動を支援しています。そして「平和」の意思をアピールし続けることに、重要な使命を感じています。2012 年（平成 24）4 月に公益財団法人に移行しました。